

2022年度 日本工学院専門学校											
音響芸術科											
サウンド基礎											
対象	1 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	講義	時間数	30	単位	2
担当教員	倉本 淳二			実務経験	有	職種	レコーディングエンジニア				
担当教員紹介											
1986年、銀座スモーキースタジオでレコーディングエンジニアとしてのキャリアをスタートし、現在は、アライヴレコーディングスタジオを拠点に、フリーランスエンジニアとして活動中。 また、シンガーソングライターの大柴広己と共に“ZOOLOGICAL(ゾロジカル)”という音楽レーベルを運営している。											
授業概要											
音を扱うということ、様々な音声信号とそのプロセス、それらの記録についての予備知識を学習する。 それらは作品として他の人に伝えることを目的とするもので、どう聴こえるのか、どんな感じがするなど、主観的な効果を得るための具体的な作業についても学習する。											
到達目標											
音響の基礎においてシグナルパス(信号経路)は大変重要であり、常に意識することが重要である。 先ず、音がどのように伝わるのか、そしてどのように流れるのか。 体系的に音声信号の取り扱いについて学習し、主回線と、そこから分岐していく様々なルート、さらに挿入されるプロセッサなどについて理解することを目標とする。											
授業方法											
基本的に対面授業で行う。配布資料やスライド・板書などを絡めた講義内容で行う。 常に発言や質疑応答に対応していく。											
成績評価方法											
試験・課題 80% 試験を総合的に評価する 平常点 20% 積極的な授業参加度、授業態度によって評価する											
履修上の注意											
この授業では、音を扱うプロとしてノイズと捉えられる授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。 公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。 授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
参考書・参考資料等は、授業中に指示する。											
回数	授業計画										
第1回	音について：音とは何か？音を取り扱うことについて知る										
第2回	スタジオシステムとルーティング：コンソールと周辺機器の関係とマルチトラックルーティング										
第3回	マルチトラックレコーディング：レコーディングの手法と作業内容について										
第4回	マイクروفオン1：主なマイクの仕組みとその違いによる分類										
第5回	マイクروفオン2：マイクの指向性とその原理、それぞれの特徴										

2022年度 日本工学院専門学校	
音響芸術科	
サウンド基礎	
第6回	マイクロフォン3：その他の種類のマイクについて、マイクの持つ性質・取り扱い
第7回	スピーカー1：ダイナミックスピーカーの構成要素や各部分の働き
第8回	スピーカー2：様々なスピーカーの種類
第9回	ケーブル接続：バランス/アンバランス、主なプラグ形状、主なインターフェースケーブル
第10回	D. I. の役割：音声信号に関わる電力・インピーダンス・ケーブル接続の知識からD. I. を理解
第11回	聴覚の特性：人の音の聞こえ方について
第12回	直列と並列：ミキサーやパッチベイにおける直列・並列の使い分けや信号の流れについて
第13回	デジタルオーディオ1：符号化の意味、PCMの仕組み、ビット変換について
第14回	ミキサーについて：シグナルパス・AUX・ソロモード・グループなどミキサーの基本的な機能と操作のまとめ
第15回	MIDIイベント基礎：ノートと音源の関係